

冬場の作業について

1 はじめに

朝夕の気温が氷点下まで下がる日が多くなりました。寒さや雪に備えた準備を早めに行いましょう。ホダ場では散水施設の水抜きが、乾燥小屋では煙突などの落雪対策、除雪準備や灯油タンクの保守・点検等が必要となります。

また、人工ホダ場では雨除け資材の巻き上げを、ビニールハウスではハウス脇の除雪準備を行います。

冬期間にハウスを利用して植菌を行う場合には、原木や種菌の手配などしてください。

2 雪害・凍結対策

(1) 除雪用資材

豪雪は、突然襲ってくる場合があります。昨今は、ホームセンターで除雪用のスコップ等が不足したことがありましたので、今年は、除雪用資材を早めに準備してください。

(2) 散水施設

散水管は、日中が暖かいうちに早めに水抜きを行います。凍結が進んでからの水抜きは大掛かりなものとなってしまいますので、たわんだ箇所に残らないように排水してください。

(3) 人工ホダ場の雨除け資材

天気の良い日に広げて乾かし、巻き上げて固定します。固定しないと、北西の季節風であおられます。また、雪どけ水が中に入り込んで次第に氷が大きくなりその重さで破損してしまいます。

(4) 乾燥機と灯油

乾燥機用の灯油は、価格状況を確認し、値下がりしているうちに給油してください。乾燥機は落雪により煙突が破損しないように補強するとともに、冬期間使用する場合には、積雪時でも乾燥小屋の換気ができるように通気窓等を確保してください。

3 植菌準備

(1) ハウスへの原木搬入

気温が氷点下になる屋外で原木を保管した場合には、原木も凍結します。

下の図は、原木の中央部に植菌穴の深さの穴をあけて温度センサーを埋め込み、人工ホダ場に置いた後、ハウスに搬入した時の温度変化を調べたものです。

ハウス内が暖かくなっても、原木が温められるまで単体で約1日、積み上げた場合は2~3日かかります。シイタケ菌糸が活動始める5℃以上に原木を暖めてから植菌をしましょう。

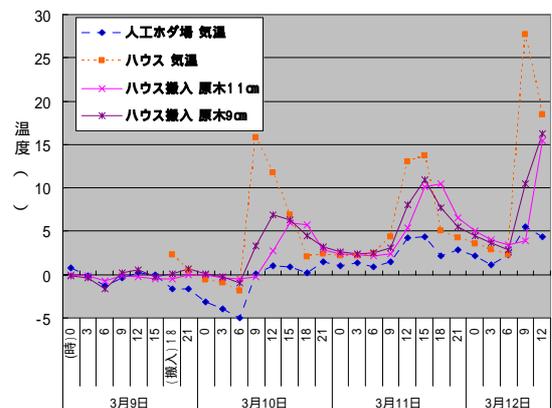


図 - 平成17年ハウス搬入後の原木の温度変化

(2) ハウスでの仮伏せ

冬期間、ハウスに仮伏せする場合、日中でも0℃まで下がります。このため植菌したホダ木の上下温度格差が生じないように、新聞紙やダンボール、ホダ木コートなどを駆使して保温に努めてください。

(3) 種菌の保管

種菌の購入後、通風の良い冷暗所に保管します。種菌は保管中でも熱を出しますので、積み重ねる場合には、密着させず隙間をあけるようにします。

(担当 上席専門研究員小原孝文 専門技術員 伊東茂敏)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 TEL 019-698-1536
岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>